

## 事業者向け

## 児童発達支援 自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			活動は、部屋の広さと利用子どもの人数を考慮して実施されています。特に、多くの人が参加する集団活動の際には、広い部屋を使用しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			職員の配置については、必要な業務を効率的かつ効果的に遂行するために十分な数が配置されています。各部門や業務の特性を考慮し、専門性や作業量に応じた人員が適切に割り当てられています。また、繁忙期や特別なプロジェクト時には、追加の職員を配置するなどの柔軟な対応をしてます。このように、職員の配置は業務のニーズに応じて最適化されており、全体として適切であると評価されます。
	③	事業所の設備等についてバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			当事業所では、バリアフリー化を推進し、全ての利用子どもが快適に利用できる環境を実現しています。個別指導室と相談室は、プライベートな相談が可能です。静養室は、疲れた利用子どもが休息できるように快適な空間を提供しています。また、職員の顔写真と名前の掲示により、利用子どもが職員を容易に識別し、安心してサービスを受けられるよう努めています。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			今後は、全職員が業務改善のプロセスに参画できるよう計画しています。この取り組みにより、チーム全体での目標設定や振り返りを行い、改善サイクル（PDCA）を効果的に回していくことを目指します。
	⑤	保護者等向け評価表により保護者等に対して事業所評価を実施するとともに、保護者の意見等を把握し、業務改善につなげているか	○			業務改善につながるよう努めている
業務改善	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果により支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			当事業所では、自己評価と保護者からのフィードバックを基に、支援の質を評価し改善しています。ホームページで公開しています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			評価で指摘された改善点は全職員に周知し、共有会議や内部コミュニケーションツールを通じて情報を共有。さらに、改善活動への参加を促すプロジェクトチームを設置することで、サービス品質の向上に努めています。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			現在、当事業所ではビデオによる研修、国内の経験豊富な職員による研修、外部の専門家による研修を実施しています。今後はこれらの研修回数を増やし、職員のスキル向上とサービス品質の向上を図る予定です。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			当事業所では、多面的なアセスメントと保護者の参加を基に、子どもと保護者のニーズを客観的に分析し、児童発達支援計画を作成しています。外部の専門家との連携により精密な支援を計画し、子どもの成長に合わせて計画を定期的に見直し、柔軟に調整しています。これにより、一人ひとりに最適な支援を実現しています。

適切な支援の提供	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		当事業所では、子どもの適応行動を正確に評価するために標準化されたアセスメントツールを使用しています。選定されたツールに基づき、研修を受けた職員がアセスメントを実施。保護者と緊密にコミュニケーションを取りながら、子どもの成長に応じた継続的な評価と支援計画の見直しを行っています。これにより、各子どものニーズに合わせた適切な支援を提供しています。
	⑪ 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容を設定しているか	○		児童発達支援計画では「児童発達支援ガイドライン」に沿って、発達支援、家族支援、地域支援の各領域から子どもに必要な支援項目を選択し、具体的な支援内容を設定しています。工夫として、子どもの興味や強みを活かしたプログラム設計、保護者の負担軽減と情報提供を重視した家族支援、地域資源の積極的な活用により、子どもと家族の包括的な支援を実現しています。
	⑫ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		児童発達支援計画に沿った支援を行っています。工夫として、定期的な進捗確認会議を設け、計画の効果を評価し、必要に応じて柔軟に調整しています。また、職員間での情報共有を活発に行い、一貫した支援を提供する体制を整えています。保護者との密接な連携も重視し、家庭での取り組みと事業所での支援が相互に補完し合うよう努めています。
	⑬ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		活動プログラムの立案はチームで行っていますが、改善の余地があります。具体的には、プログラム立案における職員間のコミュニケーションと協働を強化する必要があります。全職員がアイデアを出しやすい環境を作り、多様な専門性を活かしたより創造的で質の高いプログラムを開発するために、定期的なブレインストーミング会議の実施や、意見交換のためのオンラインプラットフォームの活用を検討しています。
	⑭ 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○		活動プログラムが固定化しないように様々な工夫をしています。具体的には、季節やイベントに応じたテーマを取り入れ、子どもたちの興味やニーズに基づいた活動を定期的に更新しています。また、保護者や子どもたちからのフィードバックを積極的に収集し、それをプログラム改善に反映させることで、常に新鮮さを保ち、参加者のモチベーションを高めています。
	⑮ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、児童発達支援計画を作成しています。工夫として、子ども一人ひとりの発達段階、興味、ニーズを定期的に評価し、それに基づいて活動内容をカスタマイズしています。また、個別活動で得られた成果を集団活動での社会性の向上につなげるなど、活動間での相乗効果を意識したプログラム設計を心がけています。これにより、各児童の発達を促すと同時に、集団での協調性や社交性の育成も図っています。
	⑯ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	送迎業務が早朝から始まるため、送迎、配置、指導に関する連絡は主に社内チャットを通じて行っています。
	⑰ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援を振り返りを行い、気づいた点を共有しているか		○	送迎業務のため全職員が集まる打ち合せが難しい状況ですが、チャットを利用して情報共有を行っています。今後は、職員間のコミュニケーション機会を増やす方針です。送迎業務のため全職員が集まる打ち合せが難しい状況ですが、チャットを利用して情報共有を行っています。今後は、職員間のコミュニケーション機会を増やす方針です。

	⑯ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日々の支援活動についての記録を正確に行うことを徹底し、その記録を基に支援の検証と改善を行っています。また、今後は職員間でのコミュニケーションの機会を増やすことで、さらなるサービスの質の向上を図る予定です。
	⑰ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しています。具体的には、6か月ごとにモニタリングを実施しています。
	㉑ 障害者相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
	㉒ 母子保健や子どもの・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		○	あまり連携していない状況です。改善のため、母子保健や子育て支援機関との定期的な情報交換会を設け、連携強化を図ります。また、共同プロジェクトの立案や情報共有のプラットフォームを開設することで、相互理解と協力を促進します。
	㉓ 医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当しない
	㉔ 保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	現在は他機関からの連絡に対応していますが、今後は積極的に情報共有を行う方針です。定期的な情報交換会の設定や、各機関との連絡係の明確化を通じて、子どもの移行支援を強化します。
関係機関や保護者との連携	㉕ 小学校や特別支援学校（小学部）との間、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	現在は受動的に対応していますが、今後は小学校や特別支援学校（小学部）へ積極的に連絡を取り、情報共有を強化する方針です。定期的なミーティングの開催や相互訪問を通じて、支援内容の共有と理解を深めます。
	㉖ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		他の児童発達支援センター等とは連携がないが、職員研修では、外部の専門家を招き、最新の知識や技術の学習、実践的なスキルアップを目指しています。このような取り組みにより、質の高い支援を実現しています。
	㉗ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか		○	地域コミュニティとの連携を積極的に模索し、共同プログラムを企画・実施することが今後の目標です。
	㉘ （自立支援）協議会子ども部や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		○	今後これらの会議や協議会への積極的な参加を促し、地域との連携を強化し、支援の質向上を目指します。
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		定期的な面談や進捗報告会を設け、オンラインプラットフォームを活用して情報を逐次更新。また、保護者の意見や感想を積極的に聞き、支援計画への反映を図っています。

	⑩ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○		大学と協力して最新の研究に基づいたペアレント・トレーニング（中国籍のみ）を定期的に実施。これにより、保護者が子どもの発達や特性を深く理解し、日常生活での対応策を学ぶ機会を提供しています。また、保護者同士の情報交換や支援ネットワークの構築も促しており、家族全員が支え合う環境を整えています。今後全利用者のペアレントトレーニングを実施する予定です。
	⑪ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		視覚資料やパンフレットを用いた個別相談の機会を豊富に設けています。また、多言語での説明資料の提供や、ウェブサイト上での情報公開も行い、アクセスのしやすさを向上させています。
	⑫ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明の同意を得ているか	○		親御さんが来園できる場合は、直接具体的な説明を行っています。来園が難しい親御さんには、電話や書面を通じて説明しています。
	⑬ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		相談には、電話、電子連絡帳、チャット、来園時、送迎時など、さまざまな方法で対応しております。保護者がいつでも気軽に話せる環境を整えています。また、専門のカウンセラーや心理士との連携も取り、保護者の悩みに対する専門的かつ個別化されたサポートを提供しています。
保護者への説明責任等	⑭ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	現在、父母の会の活動は行っていませんが、ペアレント・トレーニングの際に、親同士の連携と支援を促しています。これにより、保護者同士の情報共有や相互支援の機会を提供し、コミュニティ感を育んでいます。今後は、ペアレント・トレーニングの範囲をさらに広げ、より多くの親が参加しやすい形で、親同士のネットワーク構築とサポート体制の強化を目指しています。この取り組みにより、子育ての悩みを共有し、解決策を一緒に考える環境を整えることを計画しています。
	⑮ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		子どもや保護者からの相談や申し入れに対する対応体制を整備し、その存在を周知しています。相談窓口を明確にし、スタッフの研修を強化して迅速かつ適切な対応ができるよう努めています。また、ウェブサイトや連絡帳、掲示板を利用して情報を提供し、誰もが気軽に相談できる環境を作っています。
	⑯ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		デジタル版のお知らせなど、紙版と併用することで、情報へのアクセス性を高めています。
	⑰ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		
	⑱ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		視覚的な支援ツールや簡易な言語、母国通訳の利用、そしてピクトグラムやイラストを含む資料の提供を行い、個々のニーズに合わせたコミュニケーション方法を選択しています。これにより、すべての子どもと保護者が情報を理解しやすく、円滑なコミュニケーションを実現しています。
	⑲ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	これから地域住民を行事や活動に積極的に招待し、事業所と地域との連携を深めることが必要です。また、地域コミュニティとの協力によるイベントの企画や地域のニーズに応じたプログラムの提供を通じて、事業所の存在感を高め、相互理解と支援の輪を広げることに力いれます。

非常時等の対応	(40) 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、職員のみならず保護者への周知を徹底することが改善点です。また、理解を深めるために、これらのマニュアルに基づく訓練を定期的に全員で実施するようにします。
	(41) 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			非常災害時に備え、定期的に避難訓練や救出訓練を実施しています。工夫として、実際の災害を想定したシナリオに基づいて多様な訓練を行い、利用子どもの理解を深めています。改善点としては、これらの訓練の回数を増やし、様々な状況への対応能力を高めることが必要です。
	(42) 事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			保護者からの詳細な情報提供を求める専用フォームを用意し、これを定期的に更新しています。また、重要な健康情報は職員間で共有し、緊急時に迅速に対応できる体制を整えています。これにより、子ども一人ひとりに合わせた適切なケアを実現しています。
	(43) 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食事やおやつ提供時に気をつけ、確認するようにします。
	(44) ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			事例集には実際に起きた事例だけでなく、予防策や改善策も詳細に記載し、職員全員が学べるようにしています。さらに、定期的なミーティングでこれらの事例をレビューし、全職員が安全管理に対する意識を高めるとともに、継続的な改善活動につなげています。
	(45) 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止に関する最新の知識と技術を学ぶオンライン研修を定期的に実施し、さらに実践的なワークショップを通じて、職員が対応策を具体的に理解し、身につけることができるようになります。また、職員間での情報共有の場を設け、虐待防止に向けた意識の高揚と知識の更新を促しています。
	(46) どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、児童発達計画に記載しているか	○			今後児童発達支援計画に載せるようにします。